

(1) 目的

人口減少や少子高齢化が進む地域では、担い手不足などにより、地域住民だけでは集落の活力を維持していくことが困難となることが心配されています。

福島県では、新しい視点や行動力・専門知識など『外からの力』を持つ大学生と集落が交流する中で、地域の復興・活性化を図り、集落の応援団(サポーター)を育成することを目的とし、「大学生と集落の協働による地域活性化事業」(以下、「大学生事業」という。)を実施しています。

(2) 概要

大学生を受け入れて集落活性化を希望する集落を対象に、県が、地域活性化に取り組む意欲がある大学生グループへ、協働による地域活性化の取組を委託する事業です。



(3) これまでの実績

平成21年度から開始し、これまで48大学2,083名が活動しています。

参照: <https://www.pref.fukushima.lg.jp/sec/11025a/tiikishinkou-56.html>

《大学生事業に関するお問い合わせ》

福島県地域振興課 担当: 加瀬 電話: 024-521-7114

メールアドレス: tiikishinkou@pref.fukushima.lg.jp

大学生事業の概要 ~全体像~

背景・目的

人口減少
少子高齢化

地域の担い手不足
集落の活力低下

大学生
事業

集落の活性化
+
関係人口の創出

◇平成21年度から実施し、これまで91集落・91グループが参加
◇主な参加大学: 福島大、東北大、獨協大、宇都宮大、東洋大、宮城教育大、宮城大 R6.2月現在

集落活性化の取組

◎大学生の持つ**柔軟な視点**や**感性・行動力**を活かした集落活性化

◎県内外の若者と集落の交流

◎集落の主体的な活動を支援

大学生事業以外の様々な関わり

集落自主活動に係る伴走支援事業
 ・4年目: 集落が実施するサポート事業支援
 ・3年目: 集落の主体的な取組への伴走支援

大学生の力を活用した集落復興支援事業

・2年目: 活性化策に基づいた実証活動
 ・1年目: 集落の実態調査・活性化策提案

<共有・交流>
地域づくり交流会・誇れる集落発信事業

・活動報告会 ⇒ 気付きや学びによる活動の充実

・交流会 ⇒ 活動の広がり、地域に対する思いの醸成

集落活性化の事例

農家民宿でまちおこし 農家民宿

二本松市木幡地区水舟集落 × 宇都宮大学 H25~26.H30~R1

○大学生が**農家民宿ガイドライン**を作成し、農家民宿体験を実施。
○木幡地区では学生の提案を受け4軒の農家民宿が開業、現在は**8軒が運営中**。

竹の活用 SDGs 地域資源

会津若松市大戸地区 × 会津短期大学部 R1~

○伐採した竹を活用し、**竹灯籠**や**生活雑貨**の製作、竹酢液を使った野菜作りを実施。
○収穫した野菜は、**地元の高校生や企業と連携して販売**。

あんぽ柿 復っ活 特産品

伊達市栄川町五十沢地区 × 東洋大学 H27~30

○風評による売上減少、検査に伴うコスト増等により苦戦していたあんぽ柿。
○市場ニーズを捉えた少量販売、学生考案の包装デザイン、「発祥の地」の売り込みなど高付加価値の商品化に成功。

交流活動継続宣言 交流

只見町布沢区 × 宇都宮大学 H22~

○学生とOBが任意団体「D-friends」を結成し、区と「**交流活動継続宣言**」を締結。**年間延べ約200人**が地域を訪問し活動・交流を継続。
○本事業のOBが**地域おこし協力隊**を経て「**森林の分校 ふざわ**」の支配人に就任。

関係人口・地域の担い手へ

地域おこし協力隊

西会津町中町 × 福島大学

○Aさんは西会津町民の人柄に惹かれ、令和4年4月より西会津町の**地域おこし協力隊**に着任。
○集落支援を担当し、西会津町と他の地域をつなぐ架け橋として活躍中。

地域おこし協力隊 → 起業

南会津町耻風地区 × 獨協大学

○Bさんは大学生事業をきっかけに、南会津町の**地域おこし協力隊**として3年間活動。
○任期終了後も、**南会津町に定住し直売所の運営、地元商品の県外への販売、製作したキッチンカーの営業**に挑戦中。

1

2

大学生事業の概要 ～活動イメージ～

事業名	区分	活動内容のイメージ
大学生の力を活用した集落復興支援事業	1年目	6月中旬～12月中旬に現地活動(1泊2日× 2回)を実施 集落内の資源調査や住民ヒアリング等の実態調査を実施し、集落の現状と課題等を把握したうえで、集落活性化策を考え、提案する。
	2年目	6月中旬～12月中旬に現地活動(1泊2日× 3回)を実施 1年目に提案した集落活性化策の実証活動を実施し、活動から得られた効果や改善点をまとめる。
集落自主活動に係る伴走支援事業	3年目	6月中旬～12月中旬に現地活動(1泊2日× 4回)を実施 サポート事業の活用を検討する集落等が実施する、年度末(2月)の申請を見据えた準備等の支援を行う。
	4年目	6月中旬～12月中旬に現地活動(1泊2日× 2回)を実施 サポート事業を実施する集落に対して、より効果的な事業となるよう集落の主体的な活動の支援を行う。



- ・2月上旬に開催する活動報告会・交流会に参加し、活動内容の報告を行う。
- ・実施した活動に係る業務実施報告書を作成する。

- ※ 4年目の活動は、サポート事業が採択された集落で実施することが要件となります。
- ※ 2年目以降の活動については、過去に大学生事業に参加した経験がある大学のOB・OGの方も大学生グループの一員として活動に参加することができます。

3

大学生事業の概要 ～スケジュール～

時期	県	大学生グループ	集落・市町村
4月下旬	応募開始		市町村: 集落への周知等
5月下旬		応募申請	集落: 応募申請、市町村提出 市町村: 応募申請書への推薦理由等記入、県提出
6月上旬	選考結果通知 委託料提示	集落とのマッチング (1年目)	集落: 大学生グループとの マッチング(1年目)
6月中旬		承諾書等提出	
6月下旬	委託契約締結		
6月下旬～ 12月中旬	現地活動同行 ※1～2年目重点的に	活動実施 月1回の活動報告 インスタ等SNSによる 情報発信	集落: 大学生グループと協働 による活動実施 市町村: 各種サポート
12月中旬 ～1月中旬		活動報告会資料等提出	
2月上旬	活動報告会・交流会への参加		活動報告会への参加
2月下旬		業務実施報告書等提出	
3月下旬	委託料支払		

※ 現時点の見込みであり、変更となる場合があります。

4